

# 日本原子力学会炉物理部会第 60 回全体会議 議事次第

日時：2024 年 3 月 26 日（火）12:05-12:55

場所：近畿大学東大阪キャンパス L 会場 (21 号館 4F 21-423)

令和 5 年度 審議及び報告事項

## 【審議事項】

1. 令和 5 年度決算について（財務小委員会担当幹事）（資料 60-01）
2. 令和 6 年度予算について（財務小委員会担当幹事）（資料 60-02）
3. 令和 6 年度運営小委員会について（部会長）（資料 60-03）

## 【報告事項】

4. 2023 年臨界安全国際会議（ICNC2023）結果報告（須山氏）（資料 60-04）
5. 日中韓炉物理国際会議 RPHA2023 の開催結果報告（遠藤先生）（資料 60-05）

令和 6 年度 審議及び報告事項

## 【審議事項】

6. 第 55 回炉物理夏期セミナー開催計画（セミナー小委員会担当幹事）（資料 60-06）
7. 令和 6 年度部会企画セッション検討状況（学术交流小委員会担当幹事）（資料 60-07）

## 【報告事項】

8. 炉物理の研究（部会報）の準備状況（編集小委員会担当幹事）

以上

## 令和5年度 炉物理部会予算及び実績

科目	R5年度 予算案	R5年度 実績	備考
----	-------------	------------	----

## [1] 通常予算

(単位 円)

収    入	前年度予算繰越金 [A]	5,741,393	5,741,393	2024/2実績より
	本部配布金	220,000	220,000	
	掲載料	0	0	
	テキスト売上	0	0	
	セミナー残金	0	181,407	(内訳: 収入1,138,871円、支出957,464円)
	その他	0	0	
当期収入合計	220,000	401,407	(余剰金算出用: 通常収入+セミナー収入=1,358,871[B])	

支    出	会議費	0	0	
	旅費交通費	120,000	139,380	・国際会議旅費補助として4名に支払い済み
	通信運搬費	4,000	0	
	消耗品費	5,000	0	
	一般外注経費	30,000	18,498	・炉物理部会賞副賞(組織1件、個人3件)の予算に対し、奨励賞2件の受賞(副賞として表彰楯)。
	諸謝金	0	0	
	負担金	0	0	
	助成金	0	0	
	通常予算補助金	0	0	
	管理費配賦額	0	0	
	その他	30,000	0	・国際会議参加費補助1万円×3名の予算に対して支出無し。
当期支出合計	189,000	157,878	(余剰金算出用: 通常支出+セミナー支出=1,115,342 [C])	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	31,000	243,529	
本部納付金 [F]	0	48,706	学会規程(0303)第8条②に従い、全活動の支出合計[C]が本部配布金を上回り、配分金と収入の合計[B]を下回ることから、収入合計[B]と支出合計[C]の差額の20%(端数は四捨五入)を本部に返納する。ただし、ICNC2023寄附金に対する本部回収額は支払い済みであり、年度末の返納額は29,794円(=48,706-18,912)となる。

ICNC2023寄付金	—	94,558	
ICNC2023寄付金 本部回収額	—	18,912	= (寄付金 94,558円) の20% (本部回収済み)

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]-[F]	5,772,393	6,030,774	(ICNC2023寄付金を含む)
------------------------	-----------	-----------	------------------

## 令和6年度 炉物理部会予算案

科 目	R6年度 予算案	備 考
-----	-------------	-----

## [1] 通常予算

(単位 円)

収 入	前年度予算繰越金 [A]	6,030,774	
	本部配布金	218,000	
	掲載料	0	
	テキスト売上	0	
	セミナー残金	0	セミナー収支は±0として計算(収入、支出ともにゼロ)
	その他	0	
	当期収入合計 [B]	218,000	

支 出	会議費	0	
	旅費交通費	160,000	学生の国際会議参加旅費補助 4万円×4人 (対象会議:PHYSOR2024、ANS(Annual、Winter)、SNA+MC2024)
	通信運搬費	4,000	書類送料
	消耗品費	4,000	印刷代、コピー代、運営会議開催時の事務用品代
	一般外注経費	30,000	炉物理部会賞副賞(組織1件、個人3件)
	諸謝金	0	
	負担金	0	
	助成金	0	
	通常予算補助金	0	
	管理費配賦額	0	
	その他	20,000	学生の国際会議参加費補助 1万円×2名 (対象会議:PHYSOR2024、ANS(Annual、Winter)、SNA+MC2024)
	当期支出合計 [C]	218,000	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	0	
本部納付金 [F]	0	

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]-[F]	6,030,774	
------------------------	-----------	--

## 2024 年度(令和 6 年度) 炉物理部会運営小委員会委員 (案)

氏 名	役 職	所 属
牛尾 直史	部会長 (任期 2 年)	原子燃料工業
須山 賢也	副部会長 (任期 2 年)	原子力機構
和田 怜志	庶務幹事 (任期 2 年)	東芝エネルギーシステムズ
千葉 豪	部会等運営委員会担当運営委員 (任期 1 年)	北海道大学
西山 潤	編集委員会担当運営委員 (任期 1 年)	東京都市大学
多田 健一	HP 担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
方野 量太	HP 担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
奥村 啓介	HP 担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
渡邊 友章	財務小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
上山 洋平	財務小委員会担当幹事 (任期 2 年)	三菱重工
福田 航大	編集小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子力機構
竹澤 宏樹	編集小委員会担当幹事 (任期 2 年)	長岡科学技術大学
山本 章夫	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	名古屋大学
遠藤 知弘	セミナー小委員会担当幹事 (任期 1 年)	名古屋大学
長野 浩明	セミナー小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子燃料工業
竹田 敏	セミナー小委員会担当幹事 (任期 2 年)	大阪大学
小玉 泰寛	学術交流小委員会担当幹事 (任期 1 年)	原子燃料工業
近藤 諒一	学術交流小委員会担当幹事 (任期 2 年)	原子力機構
遠藤 知弘	学術交流小委員会担当幹事 (RPHA 担当)	名古屋大学
山本 真人	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 1 年)	三菱重工
Fan Jun-Shuang	学生・若手小委員会担当幹事 (任期 2 年)	北海道大学
北田 孝典	部会選出原子力学会代議員 (任期 1 年)	大阪大学
牛尾 直史	部会選出原子力学会代議員 (任期 1 年)	原子燃料工業

2023 年度から 2 ヶ年の任期の方は上表では任期 1 年と記載しています。

2024年3月26日

## 第60回炉物理部会全体会合

## 2023年臨界安全国際会議（ICNC2023）結果報告

須山賢也（原子力機構）

ICNC2023は2023年10月1日から10月6日（1日はウェルカムカクテル、6日はテクニカルツアー、会議自体は2日朝から5日午前中まで）に仙台国際センター（〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山）において開催された。

最終的に224件の発表と273名のテクニカルセッション参加登録、同伴者を含めた総登録数は289名となった。テクニカルツアーも1Fサイト、JAEA東海（STACY更新炉&FCA）、東北大ナノテラス（放射光施設）と女川原発の3コースで実施され、すべての予定行事が事故トラブルも無く完了した。会議後、会議への評価をオンライン匿名で実施したが、5点満点中4.65点となり、多くの方にクオリティの高い発表と東北の中核都市仙台での滞在を楽しんで頂けたのではないかと考えている。

予稿集は会議のホームページからのダウンロードを2024年1月まで可能としていたが、予定通りその専用サイトをクローズして、会議の概要情報のみを臨界安全研究グループのホームページで提供している。また、2024年度後半にJAEA-Confとして予稿集をJAEAから出版する。

会議会計は総収入29,685,015円となり、原子力学会からの貸付金200万円を返還した後の黒字額は94,558円となった。組織委員会委員長からの依頼で炉物理部会員である吉岡研一氏（東芝）と牛尾直史氏（NFI）が会計監査を実施し、2024年1月11日に適正に支出がなされていることが確認された。それを受け、原子力学会からの貸付金の返金と黒字分の炉物理部会への寄付を完了し、通帳を解約して会議の会計をCloseし、全ての業務を完了したので報告する。

---

部会員の皆様のご協力で会議を成功裏に終えることが出来たこと、皆様に改めてお礼申し上げます。会議は成功であったと評価しておりますが、この成功は組織委員会による要所要所での事務局への適切な示唆とテクニカルプログラム委員会による査読の成果です。組織委員会委員長の中島 健京都大学名誉教授ならびにテクニカルプログラム委員会委員長の遠藤知弘名古屋大学准教授にお礼申し上げます。事務局役となった原子力機構臨界安全研究グループスタッフの献身的な努力があったことも特筆すべき事でした。会議運営のクリティカルポイントとなる、原子力学会秋の大会期間も含む直前3週間の彼等の仕事に対する積極性、集中力、アウトプットの正確性と品質は本当に見事でした。16年から20年後に順番が回ってきて再びICNCを主催する可能性があります。今回活躍した人達が、良かったなと思ったことは次回も取り入れ、改善すべきと考えた点があれば改善し、「その時の人達のその時ベストな方法で」、海外からのゲストを迎える会議とその主催を楽しまれることを期待しています。

以上

国別投稿数（2003 は ICNC2003@東海村のデータ）

Country	2003	2023	Country	2003	2023
<b>Belgium</b>	2	4	<b>Poland</b>	-	1
<b>China</b>	1	2	<b>Russia</b>	18	-
<b>Czech</b>	2		<b>Spain</b>	-	2
<b>France</b>	38	39	<b>Sweden</b>	-	2
<b>Germany</b>	6	6	<b>Switzerland</b>	2	11
<b>Hungary</b>	2	-	<b>UK</b>	18	33
<b>Indonesia</b>	1	-	<b>Ukraine</b>	3	
<b>Japan</b>	41	46*	<b>USA</b>	18	74
<b>Korea</b>	3	2	<b>IAEA</b>	1	-
<b>Netherlands</b>	1	1	<b>OECD</b>	2	1*
			<b>Sum</b>	<b>159</b>	<b>224*</b>

国別会議参加者数（2003 は ICNC2003@東海村のデータ）

County	2003	2023	County	2003	2023	County	2003	2023
<b>Austria</b>	1	0	<b>Indonesia</b>	1	0	<b>Switzerland</b>	2	8
<b>Belgium</b>	3	2	<b>Japan</b>	78	67	<b>UK</b>	16	33
<b>Canada</b>	0	3	<b>Korea</b>	3	17	<b>Ukraine</b>	1	0
<b>China</b>	2	2	<b>Netherlands</b>	1	1	<b>USA</b>	25	75
<b>Czech</b>	2	0	<b>Poland</b>	0	1	<b>Vietnam</b>	1	0
<b>Finland</b>	0	2	<b>Russia</b>	8	0	<b>IAEA</b>	1	0
<b>France</b>	33	39	<b>South Africa</b>	1	0	<b>OECD/NEA</b>	1	3
<b>Germany</b>	6	9	<b>Spain</b>	2	1			
<b>Hungary</b>	2	0	<b>Sweden</b>	2	10	<b>Sum</b>	<b>192</b>	<b>273</b>

## ICNC2023 収支一覧

	項目番号	項目名	金額 (円)	備考
収入	1-1	日本原子力学会貸付金	2,000,000	
	1-2	仙台市助成金	290,000	
	1-3	協賛金	2,200,000	内訳別添
	1-4	参加費	25,195,000	内訳別添
	1-5	銀行口座利子	15	
	収入合計			29,685,015
支出	2-1	会場使用料	3,258,500	
	2-2	会場附帯設備利用料	1,568,080	
	2-3	会場設営・清掃費	271,479	
	2-4	会場通信費	90,750	
	2-5	交通費・宿泊費	87,570	内訳別添
	2-6	学生アルバイト料	152,000	内訳別添
	2-7	業務委託費	21,905,389	内訳別添
	2-8	ロゴデータ作成・編集委託費	150,000	
	2-9	雑費	102,229	内訳別添
	2-10	銀行振込手数料	4,460	
	2-11	日本原子力学会貸付金返済	2,000,000	
	2-12	日本原子力学会炉物理部会への寄付	94,558	
	支出合計			29,685,015
収支			0	

## 監査報告書

2024年1月11日

第12回臨界安全性国際会議（ICNC2023）組織委員会  
委員長 中島 健 殿

私たち監事は、2023年10月1日から10月6日まで仙台市国際センターにおいて開催された第12回臨界安全性国際会議（12<sup>th</sup> International Conference on Nuclear Criticality Safety – ICNC2023）の会計について、組織委員会規約及びその会計規約に基づいて監査を行いました。

本監査は、組織委員会企画運営部会（以下事務局）から提出された資料に含まれる

1. 本国際会議の銀行口座への入金及び出金の記録、
2. 事務局が現金によって行った出入金の根拠理由とそれに対応する領収書、
3. 事務局が会議実施のために業務委託契約を結んだ業者との契約の根拠、及び
4. 業務委託契約を結んだ業者から提出された見積と支払いの根拠となる請求書

を確認するとともに、事務局の会議会計担当者に聞き取り調査を実施することで行いました。

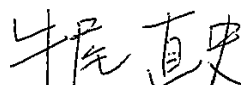
その結果、現在の口座残高がそれらの入出金の情報と整合していることを確認し、本会議の会計が適正に処理されたことを認めます。

一般社団法人 日本原子力学会 炉物理部会

吉岡研一



牛尾直史



以上





## 日中韓炉物理国際会議 RPHA2023 の開催結果報告

遠藤知弘

開催日時：2023年10月24日-26日

場所：韓国, 慶州市, 慶州画伯コンベンションセンター(慶州 HICO)

プログラム：<https://www.kns.org/boards/download/22631> (2024/3/1 アクセス)

発表予稿：[https://www.kns.org/intpaper/lists/sc\\_conf\\_name/RPHA-2023](https://www.kns.org/intpaper/lists/sc_conf_name/RPHA-2023) (2024/3/1 アクセス)



RPHA2023 の発表件数としては、①プレナリーセッションが中国・日本・韓国から3件、②研究発表が合計67件であった。研究発表の内訳としては、中国から31件、韓国から26件、日本から10件(JAEA3名、阪大1名、北大3名、名大3名)であった。参考までに、プレナリーセッション講演内容は以下のとおりであった。

- ✓ 中国：Hongchun WU 教授 (Xi'an Jiaotong University), [NECP\(Nuclear Engineering Computational Physics laboratory\)](#)における研究・教育活動
- ✓ 日本：遠藤(名大), 日本の原子力状況・1F 状況・日本国内の炉物理研究に関する概要
- ✓ 韓国：Deokjung LEE(UNIST), [UNIST の炉心解析関連研究](#)

### 【次回 RPHA2025】

中国 Zhejiang University の Qian ZHANG 先生より案内あった。浙江省(Zhejiang province)の杭州(Hangzhou)で開催することを計画中とのこと。開催時期については現時点で未定。

### 【要相談事項】

- ✓ RPHA2025 への日本国内研究者・学生の積極的な参加検討願ひ。
- ✓ RPHA2025 の場で概要報告が必要となるため、2024年度内の炉物理部会全体会議にて、2027年度に日本が担当する予定の RPHA についてご審議頂きたい。

## 第 55 回炉物理夏期セミナー開催計画

2024/3/26

遠藤 知弘

### 1. 開催日：

2024年9月24日(火)午後～9月26日(木)午前

備考：原子力学会 9/11(水)から 9/13(金)@東北大。9/14, 15, 16 と 9/21, 22, 23 は三連休

10/1 から大学の講義開始

### 2. 開催場所(予定)：

名古屋大学 ES 総合館(東山キャンパス) 1F 会議室 (50 名程度を想定)

### 3. テーマ(予定)：

Reduced Order Model：基礎理解から炉物理への応用

### 4. 講師(予定)：

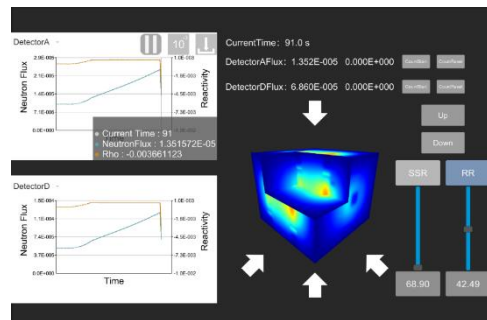
北大 千葉 豪 教授：燃焼計算簡易モデル

NEL 辻田 浩介 氏：3次元 POD 動特性計算

MHI 山本 真人 氏：核定数テーブル, 共鳴計算

名大 遠藤 知弘：ROM の基礎講義、

Google Colab 演習、Ikaros3D 演習



3次元動特性シミュレータ Ikaros 3D

	1 日目	2 日目	3 日目
AM		9:00～11:00 講義 2 (辻田氏) 11:00～12:00 演習 2 (遠藤)	9:00～10:20 講義 4(山本真人氏) 10:30～12:00 若手研究会 解散
PM	集合 講義 1 (遠藤) 演習 1 17:00 頃まで 有志で懇親会を企画	講義 3 (千葉先生) 演習 3 17:00 頃まで	

## 5 若手研究会

- ✓ 夏期セミナープログラム内において、45分×2名の若手研究者に発表して頂く予定

## 6.その他事項

- ✓ 申し込みは Google Form を利用する。  
<https://forms.gle/taSh6S3YAYWU51qT9>
- ✓ 参加費は無料、企業からの協賛金も無しとする。
- ✓ テキストは印刷しない。名古屋大学のファイルアップローダーを利用し、オンラインで参加者にダウンロードしてもらう形とする。
- ✓ 宿泊は参加者が各自予約
- ✓ 懇親会は有志を募って名大で企画する予定

-以上-

2024 年秋の年会部会企画セッション検討状況

学术交流小委員会担当幹事  
小玉泰寛、荒木祥平

日本原子力学会 第 60 回炉物理部会全体会議  
令和 6 年 3 月 26 日

令和 6 年秋の年会企画セッションのテーマ案として以下を検討しております。

企画セッションタイトル (案)

「レガシーシステムをどうするか？」

セッション内容 (案)

本業界に限らず過去の技術や仕組みで構築されている古いシステムを運用し続けることは一般的には「保守関係・運用の継続困難」「セキュリティリスク」など様々な課題が存在する。一方で、レガシーシステムからの脱却には大きな障壁があることも事実である。

このような現状を踏まえて、レガシーシステムの在り方について議論する。

予定している講演の概要

調整中

(講演者 2~3 名+ディスカッションを予定)